



まじめと素直

「ただ過ぎに過ぎるもの 帆かけたる舟、人の齢、春、夏、秋、冬。」(第二四二段)

今年、『枕草子』は「ありがたきもの」「大納言参り給ひて」「二月つごもりごろに」を学習した。この作品の本質は定子宮廷の思い出をつづった「回想章段」にあるという話をしたが、同じテーマの題材を集めた「類想章段」にも味わい深いものが多い。上に上げた第二四二段なども、個人的にはなかなか気に入っている。

＊

今年一年を振り返ると、どんなことが浮かんでくるのだろう。1月はまだ1年生で旧クラスだった。それが4月に新しいクラスとなって鎌倉遠足。5月の体育祭は第2位、第1回の校内模試もあった。6月、中間考査後の合唱祭では目標通り優良賞！ 7月、総合学習で見学先へ。夏休みをはさんで9月は期末考査から。そして星陵祭は大成功で大盛り上がり。イイ前期のまとめとなった。学問の秋を迎えた10月は、いよいよ来年に向けた科目選択。進路に関する懇談会や講演会もあった。11月は先日返却した第2回校内模試。そして、12月の中間考査が終わり、柔剣道大会も立派な結果であった。

何事も、まじめに真剣に取り組んだ人ほど感動も大きなものだ。イイ加減にやっている人には、その喜びや悔しさは分からない。分からなくてもイイ…などと開き直すことはない。大きな喜びや悔しさこそが、生きる力を与えてくれるからである。その喜びや悔しさに、素直にコミットしようじゃないか。

勉強もそうだろう。しっかり取り組んだ人ほど結果が気になるものだ。もし、結果が気になるにもかかわらず、自分はきちんと取り組んでいないと感じる人がいるとすれば、やっぱり

きちんと取り組んだ方がよい。取り組みたい、取り組むべきだと心の中では思っているからこそ、結果が気になるのである。その気持ちに素直になろう。「勉強なんてどうでもイイや」などと、心の底から思っている人はここにはいないはずである。

＊

「求めよ、さらば与えられん」

とは、聖書の「マタイによる福音書」の一節である。まずは「求める」ことが求められている。逆にいえば、自ら求めることなく毎日を送っていると、何も与えられないまま日々が過ぎていくということでもあろう。

何を求めてイイのか分からないという人もいるだろう。親の求めるものと、自分の求めるものが違うという人もいるに違いない。それぞれ大変な課題である。しかし、その問題から目をそらし、とりあえず日々を送っているうちに、望まない選択を強いられる期限が迫って来ってしまうのである。もう後戻りできない状態で「エイッ！」と決着をつけてしまうというのもイイかも知れないが、できるならそういう無責任な決着のつけ方は止めた方がよい。

というのも、「あ～でもない、こ～でもない」と悩むことの内にこそ、求めるものへのヒントがたくさん隠されているからであり、たとえ納得できる結論が出なくても、考えるプロセスの中で確実に変容してゆく自分がいるからである。そして、真剣に考えるからこそ、その結果からもたらされる喜びや後悔が、次へのステップへと結びついてゆくからである。

素直であること、何事にも真剣であること、そこから未来が拓けてゆくのである。